



書評

[評者]

山中 克郎

福島県立医大会津医療センター教授・総合内科学

内科医の私と患者さんの物語

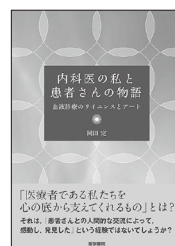
血液診療のサイエンスとアート

岡田 定 著

●A5 頁168 2021年03月

定価：2,750円(本体2,500円+税)

[ISBN978-4-260-04348-9] 医学書院刊



最近注目されている能力の1つに「ソフトスキル」がある。常識として必要であることがわかっているが、点数化することが難しいスキルのことである。コミュニケーション力やチームワーク、失敗から立ち直る力、批判的な思考、ユーモアのセンスが含まれる。経済が目まぐるしく変化する現代において、よい仕事をするためには必須のスキルといわれている。医療従事者にも必要なこれらのスキルをどう磨けばよいかを本書から学ぶことができる。長く豊富な臨床経験があり、真摯に1人ずつの患者さんと向かい合った岡田定先生にしか書けない、患者さんと紡いだ心温まる物語だ。

この本のサブタイトルは「血液診療のサイエンスとアート」と題する患者さんの物語集である。世界中の多くの医師に敬愛されている、カナダ生まれの内科医ウィリアム・オスラー(1849～1919)は「医療はサイエンスに基づいたアートである」という言葉を残している。医学は真理を追求する科学(サイエンス)である。しかし、それだけでは不十分なのだ。発熱した子供を優しく見守る母親のような慈しみ(アート)が必要である。

岡田先生とスタッフのアートを感じる逸

話は涙を誘う。白血病ターミナルステージで入院治療中の65歳女性に娘の花嫁姿を見たいとの強い希望があったので、聖路加国際病院のチャペルで模擬結婚式を行ったそう。病棟を出発する前には身体を揺さぶると開眼する程度の意識レベルだったが、チャペルに到着し娘さんの花嫁姿を見て笑顔になった。医療スタッフに見守られながらチャペルでご家族と写真撮影を行い、「ありがとう」「幸せです」「よい人生でした」との笑顔で感謝されたという。このような機転を利かせた優しい振る舞いはどのような治療にも勝るのである。

病気を乗り越える力を発揮し奇跡的な回復を見せる人には、3つの共通点があるという。「病気も意味があると前向きに考える」「自分の運命を引き受けて、生きる意欲にあふれている」「人のために尽くしたいという強い願望をもっている」。すべての人に感謝し、他人を思いやり、困難に直面しても希望を持ち前向きに生きていきたい。サイエンスとアートの力で患者を幸せにしたいと願っているすべての医療従事者に本書の購読を薦めたい。